

エペソ人への手紙 #1: この石の上に
ポー・スターン・ブレイディ
2024年・5月・19日

はじめに。私たちはどのようにしてここに至ったのでしょうか。マタイ 16:18 - ペテロにこう言われました。「わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。」人々という岩と、イエスが誰であるかという彼らの理解。イエスは教会の運営方法については彼らにあまり語らないようです。1回の礼拝か2回か? 30分のメッセージか3時間のメッセージか? 信徒席か椅子か? 誰が導くのか? イエスは、今日私たちが多くの時間を費やして話している事柄についてはあまり語っていません。イエスはこう言います。「わたしはこの岩の上に建てる。」イエスは常に教会を建てており、私たちを建てています。イエスは十字架につけられて復活し、そして「待て。何かがある...ただそれを待ちなさい。」という言葉とともに天に昇ります。そして彼らはそうします。彼らは待ち、祈り、信じ、そして使徒行伝2章で聖霊が彼らに降り、その瞬間に真の組織化された教会が誕生します。彼らは戦争の中に生まれます。激しく、まったく不当な迫害の中に生まれます。彼らは嘲笑と侮辱と貧困の中に生まれます。迫害によって彼らは世界の隅々に散らされ、コリント、ピリピ、エフェソス、ラオデキアなどの都市に王国の前哨基地を築き始めます。そして、イエスが彼らを通して教会を建てていくと、他の声が聞こえてきます。その声はしばしば彼らの気をそらし、落胆させ、道を踏み外させます。人が関わる時はいつでも、罪が関わってきます。そして、新約聖書の教会を通して、教会がさまざまな程度に道を外れていくパターンが見られます。人々がハンマーを手に取り、自分たちが見たいと思う教会を建てようと努力するが、骨組みがゆがみ、建物が安全でなくなるというパターンが見られます。(このパターンは今日も続いています。もし私たちが主に家を建てさせておかなければ、私たちが建てるものは危険なものか、眠ったままのものになるでしょう。)

パウロは、忙しくて雑然とした建設現場に手紙を書きました。パウロは、神の意志とイエスの道にそぐわない形で作られたものを励まし、勧め、時には破壊するために手紙を書きました。

エペソ人への手紙 - パウロがエペソの教会に宛てて書いたものですが、同時にその地域の教会全体に宛てた手紙でもあります。(参考資料!) これは特定の問題に関するものではなく、地域全体で読まれる回覧書でした。神の教会のビジョンと使命の壮大な概要です。神の教会。私の教会でもあなたの教会でもありません。神の教会です。そしてパウロの筆を通して表現された神の望みは、私たちが成長することです。

私たちは誕生、新しい命に夢中です...しかし成長は難しいです(赤ちゃん、子犬)。私たちの精神生活も同じです。なぜ教会は個人の成長から離れて、団体の成長、数の成長に非常に力を入れているのでしょうか。おそらく、他の種類の成長の方がはるかに難しいからでしょう。それは何でしょうか? 私たちの目的のために、ユージン・ピーターソンが著書「Practice Resurrection」で定義しているのと同じ方法で成長を定義します。

神に健やかに、愛に強く。

(このシリーズで「成長」と言うときは、常に個人の成長を意味します。深いものです。私はかつて目が見えませんでした、今は見えます。)

教会は難しいです。複雑です。しかし、それはイエスの大切な宝です。私たちは教会で成長するようにできています。教会は私たちの指導、装備、成熟のために選ばれた容器です。EP: 「地元の教会は、私たちが植えられた聖なる土壌です。」(人間関係の中で人は傷つき、癒されます。教会でも同じです。私の人生を通して、教会はイエスを信じる私の信仰が知らされ、形作られ、試され、試され、証明される場所でした。それは私が「私の意志ではなく、あなたの意志が」と言うとき、それが本気かどうかを知る場所です。それは私が団結よりも自分の意見を重視するかどうかを決めることができる場所です。私にとってお金がどれほど意味があるか、私の時間がどれほど意味があるか、そして兄弟姉妹のために自分の命を捧げる用意がどれだけあるかを知るのはここです。ここがまさにその場所です。孤立していて、周りにキリストの体がいないと、自分が善良で謙虚で忠実であると想像するのは簡単です。ここはまた、私の真の支えであり、私の最も強い味方であり、死の影の谷を私と一緒に歩き、イエスレベルの愛で私を包んでくれた人々である場所でもあります。私はイエスの教会の最高のバージョンで生活してきましたが、それは私が私たち全員に望む教会です。-それは私たちがなりつつあるものです。希望、癒し、自由、繁栄の場所です。しかし、私たちはつまづくこともあり、人間性が私たちを妨げ、一緒に成長する機会をたくさん与えてくれます。

——>. イエスは教会について何と言いましたか？

私たちは成長について、そして教会について話すつもりです。

教会 = イエスの道を愛し従うすべての教会
僕たちの教会 = B4Church

教会と私たちの教会。しかし、私たちは教会の成長について話すつもりはありません。教会は簡単に数が増え、成熟度と深さが縮むことがあります。2000年代初頭の教会の成長戦略では、「健康なものは成長する」とよく言われました。そうです。腫瘍も成長します。不健康なものは成長します。実際、巧妙なマーケティング戦略に従う方が、イエスの道に従うよりも教会を成長させる方が簡単な場合があります。根を張っていない、根拠のない、未熟な人が増える = 根を張っていない、根拠のない、未熟な教会が増える。しかし、私たちが本当にイエスの愛と道の土壌に成長し、彼の愛と彼の言葉に深く根を下ろし続けているなら、私たちは必然的に成長し、私たちの教会も深さと成熟度において成長するでしょう。深さと成熟度は、内向きの焦点を意味するものではありません...私たちがイエスを知れば知るほど、私たちは彼のように愛するようになります...私たちが彼の恵みと彼のメッセージとともに遠くへ行けば行くほど、私たちの周りの傷ついた心に対して私たちの腕はより広く開かれます。

ユージン・ピーターソンのこの引用文が大好きです(このシリーズでは彼の本を何度も引用する予定です) :

「教会とは、特定の場所に集まった、指名された人々の集まりであり、死が最大の見出しを飾る世界で復活の生活を実践するものである。国家の死、文明の死、結婚の死、キャリアの死、終わりのない死亡記事。戦争による死、殺人による死、事故による死、飢餓による死。電気椅子による死、薬物注射、絞首刑。復活の実践は、復活の命、死からの生、死に勝る命、最後の言葉である命、イエスの命を信じ、参加するという意図的で慎重な決断である。この実践は漠然とした上向きの願いではなく、死と悪魔に心を奪われた世界で、信頼できる忠実な生き方、本当の人生を維持する、いくつかの個別的だが連動した行為から成り立っている。」

話を戻しましょう。「特定の場所に指定された人々が集まること...」

エペソ1:1-2。神の御心によりキリスト・イエスの使徒とされたパウロから、エペソにいる神の聖なる民、キリスト・イエスにあって忠実な人々へ。私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなた方にありますように。」

エフェソスの神の聖なる民。

特定の場所に、指定された人々が集まること。その人々は神の聖なる民であり、その場所はエフェソスです。(歴史)

私たちは、特定の場所に集まった、指名された人々の集まりです。私たちは B4 教会、つまり神の聖なる人々です。場所はオレゴン州ビーバートンです。

パウロのエフェソス人への手紙は傑作です。パウロが飛行機で上空を飛びながら「これがあなたの人生とあなたの信仰共同体の姿です」と語る広大な風景です。そして、飛行機から降りて町を歩き、成長と実りの妨げとなっているものを指摘します。(パイロットビュート - 28 の山頂と...私の家が見えます。上から見ると私の家は完璧に見えます。食器はすべて片付いていて、芝は刈られ、ゴミは捨てられているように見えます。しかし、パイロットビュートから降りて実際の家に戻ると...山は見えず、ゴミと食器が見えます。

そこで、彼は私たちを教会の風景に案内しながら、私たちに約束された力について話します。彼は、私たちが飛躍的に人生を変えるために利用できる神の愛の深さと次元について話します。彼は祈りの資源について話します。彼は私たちに利用できる王国の資源の素晴らしさを見せてくれます...しかし、彼は私たちと一緒にキッチンを歩き、私たちが神の中で健康になり、愛の中で強くなるのを妨げているものが正確に何であるかを私たちに理解させてくれます。この2つの考えを最もよく要約しているテキストの一部、つまり山からの眺めとシンクの中の食器は、エペソ人への手紙 4 章の最初の部分にあります。

エペソ人への手紙 4:1-4.

“さて、主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、”

エペソ人への手紙 4:1 口語訳

価値がある = アクシオス - スケール。その歩みは、召命の重みに見合っています。

“さて、主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。すべてのものの上であり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つである。”

エペソ人への手紙 4:1-6 口語訳

ふさわしい歩みとはどのようなものでしょうか。イエスに従う道に重みと深みと根を加えるとはどういうことでしょうか。

私たちは何者となるよう召されているのでしょうか。

- 謙虚な
- 優しい
- 忍耐強い
- 愛をもって互いを受け入れる
- 聖霊の一致と私たちを結びつける平和を熱心に維持する

これが復活の実践です。あまり魅力的には聞こえません。預言でも説教でも教えでも指導でもありません。これは個人の成長ではなく、仲良くすることです。お互いを尊重することです。結局、それらは同じことです。私たちはお互いの恵みの中で成長することで、神の中で成長します。人間関係を歩むことを学ぶことで成長します。平和の絆を保つことを学ぶことで成長します。フラストレーションに直面しても優しさを発揮することで成長します。許すことで成長します。謙虚になることで成長します。これが私たちがイエスに完全に献身する信者になる方法であり、教会として成長する方法でもあります。希望、癒し、自由、繁栄のコミュニティです。「復活の実践は死の世界への攻撃ではありません。死の国での非暴力的な生命の受け入れです。」 P. 13

聖体拝領 と返事

祝祷